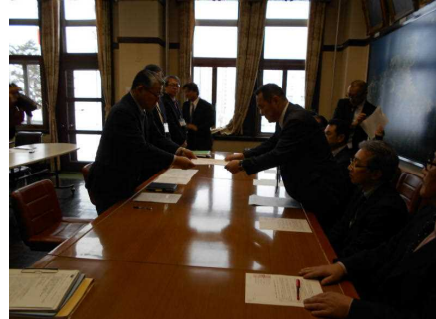


「米海軍軍艦の小樽港入港に関する申し入れ」を実施

連合北海道は、米海軍ミサイル駆逐艦「マッキャンベル」が2月3日から7日に小樽港への寄港を希望していることが明らかになったことを受け、1月18日在札幌米国総領事館へ、1月20日には港湾管理者の小樽市に対し、小樽地区連合などとともに、これに反対するよう申し入れを行った。



申し入れでは、民間商業港を準軍港化し日米新ガイドラインによる自治体協力をなし崩しに進めるもので、平和を願う市民の思いと逆行するものであると指摘。また、最新鋭の核弾頭搭載可能な艦船の入港は、核兵器廃絶平和都市宣言を行っている小樽市民の意志に反することから、搭載有無などをしっかり確認するよう求めた。

これに対し、在札幌米国総領事館レイチェル・ブルネットーチェン首席領事は「地元の声聞くことは重要と考える。こうした要請があった旨は、米国大使館と本国に伝える。」と述べた。

小樽市は回答期限は本日20日であったが、現時点で商船の接岸予定が不確定であることから、期限までに米国艦船の接岸手配ができないと港湾長へ回答したと説明、25日に再度判断するとした。また判断条件とされる3項目（1. 入出港及び接岸時の安全性、2. 商業港としての港湾機能への影響、3. 核兵器の搭載の有無）について上林猛副市長は「歴史的に見て小樽港は商業港であり、この3つの条件は大切にしていきたいという思いだ。25日に再度検討するが、要望の趣旨は市長にも伝え、自治体として適切な判断をしてまいりたい。」と述べた。